



校長室だより 2

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和6年2月29日
5年度第35号

去る24日(土)はPTAの資源回収でした。3連休の中日でしたが役員の皆さんは皆朝早くから集積場所のコミセン前で忙しく働いておられました。年1回のこの事業の収益がPTA活動の貴重な収入源となります。資源物を出してくださった各家庭や事業所の皆さんにも感謝！です。今年度のPTAの締めくくりとなる活動でした。関係の皆様方、本当にこの1年間お疲れ様でした。

6年生を送る会に向けて、気持ちが高まっています

今年度の児童会全校集会の最後を飾る「6年生を送る会」がいよいよ1日(金)に迫ってきました。保護者の皆さんに予めお知らせしたとおり、学年別に当日の発表や会場の飾り付け、6年生への事前の招待状とプレゼント作り(渡し)等々を分担して取り組んでいます。

先日、お昼休みの時間には3年生が2人で体育館前の入り口付近で紙花や飾りのパーツをもって何やら相談をしていました。自分たちが用意した飾りを実際にどうやって並べるのか、数は足りているのか、などを確かめるため、割り当てられた授業時間以外の時間を使って自主的に活動しているようでした。そこまで一生懸命に考えて行動しているのかと、私は胸が熱くなりました。当日は3年生のそうした頑張りも感じ取りながら、会を楽しみたいと思いました。

1年生は6年生への招待状を手作りし、26日(月)には6年教室で手渡しをしました。当日6年生はそれを入場します。楽しみですね。

2、4年生はそれぞれ6年生と触れ合えるゲームやクイズを考えているようです。また5年生はこの会全体の企画・進行係としての仕事、そして学年の出し物にも取り組みます。さらに6年生は恒例の「お返し」(プログラムに初めから明記してあります！フフフ…)。今年はどうなるのでしょうか。

荻生小学校の「送る会」は市内のほかの小学校に比べると開催時期が遅いのですが(2月中に実施している小学校がほとんどです)、その分「もうすぐ6年生が卒業するのだな」という気持ちが高まり、卒業生と在校生の心がぐっと通い合う会になるのではないかと思います。あくまでも児童会行事なので、出し物の完成度というよりは計画・準備の段階も合わせての心の高まりと、仲間といっしょに活動する楽しみを味わうことを、何より大切にしたいと思っています。



★この「校長室だより」のカラー版は本校ホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。

体育委員会プレゼンツ「なわとび大会」が行われました

22日(木)の昼休みに、縄跳び自慢の荻っ子と観客の子供たちが体育館に集結しました。今年度初の試みとなった体育委員会主催の「なわとび大会」です。今回は前跳びの持久跳びのみでしたが、タイマーで設定していた10分間を超えて跳び続ける子や子供と一緒に挑戦する先生もいて、応援もかなり盛り上がりました。

運動好きな子が多い荻生小学校ですが、「全員一斉に」ではなく「挑戦したい子が思い切り挑戦する」というこういう取組もいいですね。体育委員会の子供たちのお陰で、グラウンドでの「逃走中」(鬼ごっこ)に引き続き、楽しく体を動かせる時間がまた1つ増えました。



シリーズ「教室におじゃまします」2/26(月)2年体育科の巻

体育館に入ると皆一目散に水筒と筆記用具等を置き、準備運動を始めます。

その後ランニング、そして縄跳びです。テキパキとルーティンのように進みます。

その後は、このところ取り組んでいるキックベースボールでした。低学年の運動遊びなので、攻めや守りの方法を知り簡単なルールを守って遊びます。体育館内を大きく2コートに分け2チーム同士の対戦を同時に行いました。

今回は運動遊びが苦手な子供にも配慮し、

①柔らかいボールを使う、②予めセットしたボールを蹴る、③1対1での対戦を繰り返す といった工夫がされていました。チーム対抗の形を取りつつも簡単なルールになっていて、お互いのミスを責めすぎないで楽しめるようになっているなと思いました。平野先生、さすがです。

もちろん、思い切り運動を楽しみたい子は、自分の番になるとそれはそれは力強くボールを蹴る!走る!そして守る方は懸命にボールを追う! 時間を忘れるほど楽しんでいるようでした。

途中に「作戦タイム」も設けられ、チームで話し合う時間もありました。あっという間の45分間でした。



おまけのくひといごと > 体育の時間のゲームとなると勝ち負けが絡んでくるので、どうしても「勝った」「負けた」でトラブルになりそうなことがあります。2年生の今回の体育でも、負けたときに特定の誰かを責めるというのではなく、「最悪だ!」「終わった」などとショックを受けている子が数名いました。それだけ真剣に取り組んでいたということなのでしょう。「勝っても負けてもどうでもいい」というよりはむしろ負けず嫌いの子の方が「見るべき所がある」子なのかもしれません。友達のミスを責め立ててケンカになるのは考えものですが、勝ち負けにこだわるその子なりの思いを受け止めて対応できればと思います。

★この「校長室だより」のカラー版は本校ホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。